



静岡市

環境保健研究所

だより

☆表紙	1
☆重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について	2、3

静岡市環境保健研究所

静岡市環境保健研究所だより
令和4年度春号
(令和4年5月発行)

発行者
静岡市環境保健研究所 佐藤 弘和
編集 微生物学係 榎原

重症熱性血小板減少症候群（SFTS） の市内発生について

マダニが媒介する感染症として、以前に紹介したSFTS（令和2年度秋・冬号）の患者が2021年6月に市内で初めて確認されました。

SFTSは、2013年に国内で初めて感染が確認されて以降、西日本を中心に患者が発生していました。近年、その発生地域が徐々に東側へと拡大し警戒されていた中での状況です。

SFTSとは

この病気は、SFTSウイルスを保有するマダニに刺された際に感染し、発熱、嘔吐、下痢といった症状のほかに白血球や血小板が減少するといった特徴がありますが、致命率が10～30%と非常に高く、注意が必要です。

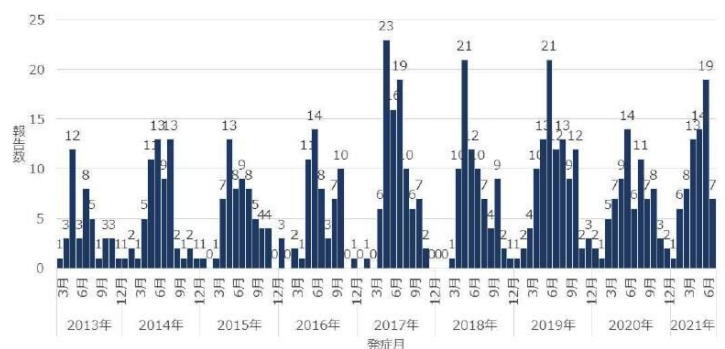


タカサゴ キラマダニ

発生時期

発生時期は、例年、4月頃から増え、5月をピークに10月頃まで続く傾向があります。

2013年3月4日以降に届出られたSFTS症例の発症時期（n=633, 2021年7月28日現在）



引用：国立感染症研究所HP（感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要）

予防について

これから気候も暖かくなり、野山に出かける機会も増える季節となります。

特に草むらや落ち葉の下にマダニは潜んでいますので、屋外で活動する際は、素肌を露出しないことやマダニの忌避剤（ディート、イカリジン）を併用するといった、マダニ対策も念頭に入れた行動を心がけましょう。

また、犬や猫もSFTSを発症することが確認されており、近年では発症した犬や猫からの人への感染についても報告が出てきています。

ペットに対してもマダニの防除剤を使用していくとともに、猫に関しては屋内飼いをするようにしましょう。